

# 音別町認知症対応グループホームの休止を厳しく追及

6日から17日までR2年度の決算審査が行われました。村上議員は国保と介護保険について、それぞれ10数億円を超えた基金を活用して保険料の更なる引き下げが必要だったなどと質問。あわせて、音別町に市が設置している認知症グループホームが昨年4月から休止になっている問題を問いました。

音別町のグループホームは市が設置者となり、指定管理者制度を使って民間事業者が行っていたものです。しかし、事業者が契約満了とともに撤退、休止となりました。当時8人の入居者がいて、5名は音別の特養に、2人は市内の養護老人ホームに、お一人は在宅へ移りました。いまも入居を待つ待機者が3人います。



## 設置者としての市の責任を果たさず

一番の問題は、これは民間の問題ではないということ。市の施設であり、民間事業者は市から委託を受けただけです。その事業者が撤退したなら、サービスを提供する責任は市にあります。



市長も村上議員の追及にいろいろ背景もあってと言いつつ、「それは正論」と認めざるをえませんでした。

## 一年で電話2本、訪問1箇所「これしかないのか!」

一年間、再開のために事業者に働きかけた全て経緯を記した資料の提出を求めたら・・・電話が2回、訪問は一団体しかありません。必死に事業者を探していたとは「とても言い難い」資料です。市は「記録には残していないがこのほかにもしている。たくさん連絡すればいいというものではない」と、これまた言い訳がましい答弁。

そこで村上議員が、「市のHPで音別町、認知症、グループホームと検索すると、何が出てくるか知っ

ていますか。一番先にヒットするのは、撤退した事業者と『契約しました』という6年前の記事です」と指摘。こんな記事が、今も平気で載っているのですから、真剣さが疑われます。

さすがに市も、ホームページはすぐに対応しますと答弁しました。年度内にメドを立てたい

こうした厳しいやり取りの中で、音別町行政センター長は、「直営の再開も検討したが、職員の確保などもあり、すぐにはできない。年度内には次の指定管理者のメドを立てたい」と発言しました。この発言通りに進めば来年度には施設が再開されます。約束がしっかり果たされるかどうか、厳しく注視していきます。

## 後任管理者「年度内に」

休止の高齢者施設巡り市  
定例釧路市議会15日  
予算決算委で2020年度  
の各会計決算の審査を続  
行。市は昨年福祉科会、  
指導管理の撤退で20年4  
月から運営を休止している  
19年度立花市長官邸影響  
を受けたムツクリの作り手  
で、IT技術者を後世に伝え  
る。また、アイヌ民族の海  
外への先住民族との交流事業  
を検討する考えも示した。

9.16 付北海道新聞から

## 村上議員以外の質問は

ほんのわずかでした

(民生福祉分科会)

決算審査は監査委員への質問、書類審査、分科会質疑、市長総括質問の順で行われます。書類審査は4時間だけです。書類でも全体は調べられません。

結局、村上議員は絞りこんだ10数項目を調査し質疑しました。問題点のなかった消防は調査そのものをあきらめました。



分科会質疑で他の議員は、「空床確保の補助金をもらいながら入院拒否した病院もあるが、そんなことはないか」「病院の赤字分で基金をつくる考えはないか」などと質問した。そのため、5つの審査対象の「部」のうち、病院を除く3つの質疑は村上議員のみ、消防は質問ナシでした。



ちなみに村上議員は、監査委員への質問では企業会計について、市長総括も介護保険の2点を質問しました。

# 決算審査 直営も含め早期再開を求める